

グローバル社会にも貢献できる生徒に

川口市立高等学校長

吉野 浩一

本校の教育目標は、「未来を創る しなやかでたくましい人材の育成」であり、本校の生徒が、時代の変化や多様化する社会のニーズに柔軟に対応する『しなやかさ』をもち、困難な課題にも協力し合いながら『たくましく』臨んでいくことで、我が国をリードし未来を創造していくことができる人材に成長させることを目標としています。本校の「目指す生徒像（ディプロマポリシー）」の一つには、「グローバルな視野を持ち、地域に貢献する意志と行動力を持つ生徒」を掲げ、学校全体でグローバル教育を推進しているところです。

さて、コロナ禍により実施できずにいたフィンドレー高校への長期留学を実現することができ、派遣された本校を代表する2名の留学生在が無事に帰国しました。長期留学に挑戦してくれたことは大変すばらしいことだと思います。2名の留学生在が今回の留学について報告書をまとめてくれました。それぞれの留学生在が留学を希望した動機や実現までの過程における心配や努力、現地での有意義な体験や苦労、新たな発見や出会いに触れていて、その一つ一つが今回の留学における大きな成果であると思います。さらに、それらをまとめた本報告書は、本校にとっての財産となるべきものだと言えます。

世界は広く、さまざまな文化や価値観にあふれています。日本で生活しているとわかりえないことがたくさんあります。多様な価値観に触れることはその後の人生に少なからず影響を与えるものですから、私はできる限り若いうちに海外を経験することにとっても意味があると思っています。期間は短くても長くても、親元を離れて、自分から主体的に行動しなければいけない状況にあえて挑戦する、英語が喋れるようになってからを待つことなく留学にチャレンジする、大きな声で単語を言うだけであとは身振り手振りでどうにかなるだろう、そんな経験を多くの生徒にしてもらいたいと思っています。

これからますますグローバル化していく世界を生きる本校の生徒のため、グローバル教育をさらに充実させ、グローバル社会にも貢献できる卒業生を輩出したいと考えています。

結びに、本報告書の発行に際し、まずは2名の留学生在に感謝し、本報告書をきっかけにして、留学はもとよりさまざまなチャレンジに挑戦する生徒が増えることを大いに期待しています。



川口市立高等学校 フィンドレー高校留学報告書

Kawaguchi Municipal High School Findlay High School Study Abroad Report

【留学期間：令和6年8月17日～ 令和7年5月26日】

生徒氏名：^{すげの}菅野 ^{とわ} 永和

記入日：令和7年6月24日

1 留学を志望した理由、きっかけ

私は幼少期から異文化交流や他言語に強い関心を持っており、かねてよりそれらについて深く学びたいと考えていました。また、アメリカという全くもって見知らぬ土地で友達なし家族の助けもなしで自分がどこまでやれるのかを試したいと思っていました。そこで留学を通し、自分自身の知識的な成長、また人間的な成長を図りました。

2 留学までの準備、語学対策、検定試験

留学が決まって最初に私が考えたことは、まずあちらでの日常会話の乗り切り方です。今まで日本で学んできた英語は、よく言って受験英語、せいぜい日本人が最低限知っていなければ学校でいい成績がとれないあるいは受験に失敗する、といった英語であって、アメリカで日常的に使えるような知識は一切ありませんでした。そこで私は、SNSを利用して、アメリカで日常的に使える単語、フレーズ、スラングを勉強しました。また、最低限の英文法を把握しておくために、英検2級を渡航前に取得しました。

3 授業

(1) 履修した科目、内容（別紙の Transcript も参照）

①：Environmental Science

環境科学という名前のとおり、私たちの身の回りにあるさまざまな科学に関して学びます。日本の高校で一般的に学ぶようにジャンル分けされているのではなく、この教科ではこのクラス一つで、物理、化学、生物、地学、すべての科学に関してを学びます。

②：Spanish

スペイン語のクラスです。私が受けていた授業は、Spanish 1 と呼ばれるもので、初心者スペイン語に関してほとんど何も知らない人が受けるスペイン語の授業です。

Spanish honors というレベルのクラスまでいくと、授業がすべてスペイン語で行われ、ネイティブの先生に教えていただけます。

③：CP English

CP と名のつくクラスはすべて、カレッジレベル、つまり大学受験者用のクラスです。それが付かないクラスよりも少し難しく、特に English はかなり生徒から嫌われている教科の一つです。日本でいう国語の授業のように、文章の構成、文法を読み解き、筆者、作者が何を意味したかったのかを紐解いていくというのが主になります。

④：Modern World History

その名の通り、近世の世界史を学びます。アメリカが関わっている部分だけでなく、ヨーロッパの歴史に関しても、一応少しだけ学びます。ですが、ほとんどアメリカが関わっている部分を学ぶだけだったり、日本のようにいくつかの単語に関して詳しい説明がされたり、はないです。あくまで流れを理解することが主になっています。

⑤ :ELL

English Language Learners の略で、英語が第一言語ではない人が取ることを強制される授業です。本を読んで、読んだ部分を要約することや軽いエッセイを書くことなどをします。初めは面白くなかったですが、英語に慣れてきて文章がちゃんと読めるようになってからはとても有意義な授業でした。

⑥ :History Through Film

映画を見て、そこから歴史を学びます。よく見るのは、黒人奴隷や黒人差別に関する映画です。

⑦ :CP Algebra

日本語で言う代数という単元の数学です。アメリカの高校数学は、日本の高校数学より比較的簡単でとても楽な授業でした。テストや日々の課題なども特に問題なく進めることができたので良かったです。

(2) 授業を受けるにあたっての心がけ、努力、工夫

毎日英語を聞いていると次第に慣れていくとは言え、さすがに最初の方は授業中に先生方が何を話しているのか、自分が何をすればいいのか、などがわからなくなってしまうことが多々ありました。そのため、私が心がけていたのは、分からないことはすぐ周りに聞くことです。先生でも友達でもいいのでまずは聞いて何をするのかを把握する。そして、後から先生の話を振り返り、あ、あのときこう言っていたのか、を理解することがとても重要でした。

(3) 学習で直面した困難、克服策

学習に関して困難に直面する不安はほとんどありません。なぜなら、いつかは慣れるからです。最初の方は難しいと言っても、留学生ということもあって先生方は積極的にサポートしてくれます。なので、結局1番難しかったのは自分の意識の改革でした。いくら先生方がサポートしてくれるからと言ってそれに甘えず、自分から先生に質問したり、先生の助けなしで取り組んだり、それがあって初めて、成長と呼べるな、という風に自分の意識を改革しました。

4 授業以外の学校生活

私は日本人にしてはかなり友達が多く、毎授業間に友達と話しながら移動教室をしていたし、授業中に関しても、友達が沢山いたので誰かしらに頼ったり、誰かと協力して課題をしたりできたので比較的楽にことが進んだなと感じています。友達をたくさん作ることができた一番のポイントは、やはりチームスポーツをプレーしていたこと、私の場合はバスケットボールをプレーしていたことでした。同じチームとして友達と一緒にプレーをすると、やはり相手も自分のことを認めてくれたり、自分のことを知ってくれようとしてくれます。それが1番私の学校生活を支えていたなと、今では思います。

5 学校の外での活動、生活

私は放課後よく、趣味でビリヤードをプレーしていました。小洒落たバーのようなところには決まってビリヤードテーブルがあるので、ホストファザーと一緒に日々切磋琢磨していました。また、友達と遊ぶことも多かったです。近くのスポーツセンターのような所でバスケットをしたり、ご飯を食べに行ったり、ボウリングをしたりです。基本的に充実した毎日を、学校外でも過ごしていました。

6 ホームステイ

(1) 常に心がけていたこと

私がホームステイをするにあたって常に心がけていたことは、自分の部屋に閉じ籠もるのではなく、積極的にホストファミリーとコミュニケーションをとること。そして、自分を曲げることです。今まで日本でやってきたようなことがまかり通らない場面が多々ありましたが、そういうときは自分を曲げてでも環境に適応し、自分を変える機会を掴みに行くようにしていました。

(2) ホームステイしてよかったこと

アメリカで生活していた上で、自分の一番の理解者は、ホストファミリーでした。彼らがいなければ私はあちらでの生活にもっともっと難儀していたことでしょう。また、ホストファミリーとコミュニケーションをとるのが、英語を成長させる一番の近道なので、積極的に話しかけても不愉快に思われない相手がいるというのは、とても安心感のあることでした。

(3) ホームステイで困ったこと、対応策

特に困ったことはありませんでしたが、もし何か困ったこと、例えばどこどこに行かなければいけない、とか、何々を買わなきゃならない、などは躊躇することなく伝えることが重要でした。そういうときにはホストファミリーは必ず助けてくれます。

(4) 日本から持参すればよかったもの、持参しなくもよかったもの

何々を持参すればよかった、と思うことは特にありませんでしたが、日本のお菓子を持ってきたのは大正解でした。自分が何か食べたい時に気軽に食べられる物があるというのもそうですし、なにより友達にあげると喜ばれます。

(5) 実際に使った生活費の概要

ホストファミリーへ支払う金額や、主に親が払うことを予定されている費用などは抜きにしても、あちらでは月一万円ほどは必ず払うことになると感じました。多いときで2、3万円程度です。なにより物価が高いので何を買うにも日本よりも高くかかってしまいます。

7 留学を振り返って

(1) 一番努力したこと

友達に積極的に話しかけること、恐れずにコミュニケーションをとることを一番頑張りました。やはり友達がいないとどうしてもつまらないと感じてしまうので、どの授業でも仲の良い友達がいるようにすることで、どの授業にいても、居場所を担保していました。

(2) 一番大変だったこと

これもまた、友達を作ることです。やはりアジア人との関わりはアメリカ人にとっては物珍しいので、初めの方は少し距離を置かれてしまいます。なので前述したように積極的に話しかけなければいけませんでした。何しろ英語力がネイティブと比べると圧倒的に低いので、そもそも話を聞いてもらえないということが多くあり、ためらわずに話しかけることができるようになるまで、かなり時間を要しました。

(3) 留学の経験から得たこと

英語力はもちろんそうですが、新しい価値観を知ることで、もともとの自分の価値観を大事にすることと、新しく学ぶことができる価値観のある場所に迷わず飛び込む重要性に気づかされました。そして、何事も全力で楽しむことが何より人を成長させるということを改めて知りました。私もはじめの頃は、友達もあまりいない、ためらいなく話せる知り合いもい

ない、強い孤独に苛まれることが多々ありました。ですが、そこで折れるのではなく、楽しむために何ができるかを考え、それに向かってまっすぐ突き進むことの重要性に気づいてからは、何事も自分の思い通りに進んだように思えます。

(4) 一番思い出になるエピソード

冬のある日、バスケットチームで試合があつて、スクールバスに乗ってみんなで試合会場から帰っていたとき、後ろのほうに座っていたみんなでかたまって話していました。ちょうどクリスマス話題が出たので、そのときに私が急に「All I Want for Christmas Is You」を流したところ、チームのみんなでの大合唱に発展するという事態になりました。とても面白い瞬間だったのと同時に、ここで初めて私がチームの一員としてみんなと仲良くなれた時だったなと感じました。

(5) 留学の経験を今後どのように生かしていくか

大学入学でのアドバンテージとして利用していきたいのはもちろん、大学入学後、就職先でも自分の英語力を生かして活躍をしていきたいです。またそのために、現状維持ではなく、もっとフォーマルでビジネス的な英語の習得を目指し、今後の仕事に生かしたいと考えています。

(6) 後輩に伝えたいこと

フィンドレーは広いアメリカの中でも、珍しい、日本人に寛容でとても治安のいい地域です。なので、もしもフィンドレーに行くことを考えている人がいたら、その人はあちらで何か行動を起こすことを恐れずに物事に取り組んでほしいです。フィンドレーはそういうマインドで過ごすのに、日本人にとっては最適な場所だと思います。人も、食も、場所でさえ優しい地域だからです。この先のグローバル社会に向けて、フィンドレーで取り組む機会を得たことは、ぜひ全力で取り組み、やるべきことはやり、有意義な留学にしてほしいと思います。





川口市立高等学校 フィンドレー高校留学報告書

Kawaguchi Municipal High School Findlay High School Study Abroad Report

【留学期間：令和6年8月17日～ 令和7年5月26日】

生徒氏名：中村 ^{なかむら} 蒼真 ^{そうま}

記入日：令和7年6月24日

1 留学を志望した理由、きっかけ

私は幼い頃からニュースやドラマ、映画を通して、多くの海外文化に興味を抱いており、同時にこんな海外生活を経験してみたいと考えました。外国人との交流も積極的に行うようになり、中学時代には英語弁論暗唱大会に出場、入賞。さらに、自分の英語力を伸ばしたいと思うきっかけになりました。このプロジェクトを知った時、ここで得られる経験は必ず将来の自分に役立ち、また、多くの人に共有したいという強い思いを持つようになりました。最終的には家族、先生、友達からの応援を受け、自分も成長したいと考えて、留学を志望しました。

2 留学までの準備、語学対策、検定試験

留学以前の私は英語に興味があり、様々なことに挑戦していましたが、その努力は直接自分の英語力に影響せず、テストや知識は苦手な状態でした。だからこそ、私は日常会話の簡単なフレーズや、趣味について説明できる程度の英語力は身につけようと努力しました。また、学校の先生方のサポートもあり、代表決定時には英検2級、春休みには東京外国語大学でのイングリッシュキャンプなど、少しずつ成果を出して、留学に向けての準備を進めていきました。

3 授業

(1) 履修した科目、内容（別紙の Transcript も参照）

① :Environmental Science 環境化学

日本に置き換えると生物のような授業。身近な自然から、国際的な問題まで、幅広く環境について学びます。

② :History Through Film 映画を通して学ぶ歴史

実際に公開されていた映画を視聴して、米独立や奴隷制度、戦争など様々な歴史的題材を映画の表現などから学びます。

③ :CP English 11th 英語（11年生）

アメリカ版の国語です。内容はシェイクスピアやマークトウェインといった有名著作などを読み、当時の心情表現などを学びます。

④ :CP Geometry 幾何学

数学はいくつかの授業に分けられており、これは図形などに特化した授業でした。グループで問題に取り組み、話し合って解答を導きます。

⑤ :Modern World History 近代世界史

昔から現在に至るまでの、神聖政治、独裁主義、民主主義、社会主義、および戦争や疫病の歴史を学びます。

⑥ :English Learner Lesson 英語（留学生向け）

英語が第一言語ではない生徒は ELL という簡単な英語の授業が必修科目です。内容は表現を学んだり、本を読んで感想を書くなどをして英語力向上に努めます。

⑦ :Financial Literacy 金融学

税金や物価、職業などを金融経済的視点から学びます。時には実際の軍人やコンサルタントさんから講演をいただきます。

⑧ :Essential Communication スピーチ、面接

舞台演出に特化した先生から、スピーチや面接を通してコミュニケーションについて学びます。

⑨:Web Design ウェブデザイン

簡単なテンプレートから、専門的なプログラムを利用したものまで、幅広い技術を応用して Web サイトを制作します。

(2) 授業を受けるにあたっての心がけ、努力、工夫

留学生という立場を意識せず、一生徒という認識で、積極的にクラスメイトに話しかけて、コミュニケーションをとるように心がけていました。また、先生にも積極的に声をかけて、わからない場所はハッキリさせて伝えるなど基礎的な部分から努力をしていました。

(3) 学習で直面した困難、克服策

わからない単語や表現がほとんどで何から手をつければいいのか全くわからず、混乱していた時期もありましたが、家族や友達、先生とのコミュニケーションを生かして、その点を相談してみたり、一緒に解決しようとする中で、徐々に授業にも慣れていって、たくさんの知識を得ることができたと感じています。

4 授業以外の学校生活

学校の授業や部活でよく話す友達と遊んだり、一緒にご飯を食べたりしました。アメリカの都市は一つ一つが広大な規模なので、日本のように電車やバス、自転車での登下校はできず、車での通学が日常の光景です。多くの生徒が自分の車を運転して学校に登下校するので、よく友達とドライブに行ったりすることもありました。また、学校でも多くのイベントが実施されていて、ミュージカルのコンサートや、生徒会が運営するフェスティバルなど、一般の方々も招いての大規模なイベントもたくさんありました。市で唯一の高校だからこそ、フィンドレー市と協力して、多くのイベントや活動のきっかけになっていると感じました。

5 学校の外での活動、生活

留学期間の後半では野球部に所属しました。アメリカの野球と日本の野球はまったく違うもので、練習から試合まで、すべてが私にとって新鮮なものだと感じました。私は日本で経験してきた野球を現地のチームメイトに共有、逆にチームメイトからはアメリカの野球観を共有し合ってくれました。日本に帰国後は日米の野球を経験した貴重な思い出をみんなに共有しています。野球を通して、多くの友達ができただけでなく、本当に大きな成果だったと感じます。

6 ホームステイ

(1) 常に心がけていたこと

家族との毎日のコミュニケーションは欠かさず行うよう心がけていました。特に自分の好きなことはたくさん伝えて、家族の好きなことについては話題を広げるということを意識していました。私の不完全な語学力で私のことをすべて理解してくれることは難しいので、好きなことや伝えられることを強調することで、コミュニケーションの話題になっていきました。

(2) ホームステイしてよかったこと

今まで一度も、家元を離れたことのなかった自分にとって成長の大きなきっかけになりました。今まで出会ったことのなかったファミリーとの関係や、現地でしか体験できない衣食住の文化など、ホームステイでしか経験できない数多くの思い出があります。このホームステイは人生の中でも忘れられない期間になると感じます。

(3) ホームステイで困ったこと、対応策

最初の数か月は自分の語学力がままならず、現地の生活にも慣れていなかったのも、自分の殻の中で閉じこもってしまうことが多々ありました。しかしながら今まで自分が勉強してきたノートや、友達からのメッセージを読んで、それが自分の中で大きな力になって、家族や友達とのコミュニケーションなど自らが積極的に行動を起こすようになりました。ホームシックのように落ち込んでも、今自分が過ごしている時間や場所の一瞬一瞬は大切なものなのだと意識すると、肩の荷が下りて、気楽に慣れたと感じます。

(4) 日本から持参すればよかったもの、持参しなくもよかったもの

日本で使っていた部活の道具は持って行った方が良いと後悔しています。実際に部活に参加するのに、どんな道具や、どんな書類が必要なのかがわからなかったのも、道具が多い野球では特に感じました。逆に日本食や服などは持って行かなくていいと感じました。アジア食料品店や、日本食レストランがあるので、あまり日本の味が恋しくなることはありませんでした。服に関しては、気温や環境があまり予想できず、たくさん持っていきましたが、実際には日本の環境と大きくは変わらず、現地でも服を調達できるので、無理に持っていく必要はないと思います。

(5) 実際に使った生活費の概要

実際に生活して感じたのはとにかく物価が高いということです。アメリカの平均給料は日本の給料の2倍ほどと言われますが、日本円換算の視点で見ると、さらに高く感じました。例えばビックマックセットは約16ドル、現在の日本円で約2300円もかかります。ちゃんとしたレストランで食事をすると、40~50ドル(6000~7000円)ほどかかるので、日本の物価換算でアメリカ生活をするのはとても大変だと感じました。

7 留学を振り返って

(1) 一番努力したこと

一人でものごとに取り組んで、挑戦していったことです。相手の言っていることが理解できず、自分の思ったことを伝えることもできなかった最初の自分が、今ある特別な経験と状況を絶対に良いものにしたいという一心で、困難を努力の糧にして、失敗を恐れず、積極的にアクションを起こしました。

(2) 一番大変だったこと

自分の好きなことやしたいことが伝わらなかった時が一番大変でした。相手の言葉を聞き取って、自分の意見を伝えるのは、コミュニケーションの第一歩ながらも、会話がかみ合わないで成立しない、最も難しい部分でもあったと感じました。この大変な経験が自分の成長に一番影響したと思います。

(3) 留学の経験から得たこと

現地の人々の生活感、文化、価値観など、すべての要素から日本とは全く違うように感じました。中でも、自分の伝えたいことを伝えられるようになる大切さ、コミュニケーションによる価値観の変化、自分の置かれている状況を最大限活用しようという考え方、これらが留学を通して私が最も得ることができてよかったと感じたものです。

(4) 一番思い出になるエピソード

ファミリーと一緒にいったニューヨークとシカゴ旅行です。幼少期から憧れていたアメリカの風景を目の当たりにして、今までの人生観が大きく変化したきっかけになったと感じています。特にシカゴで見たメジャーリーグの試合は今でも鮮明に覚えており、世界中のトップ選手たちの中で戦う大谷選手、鈴木選手、今永投手の姿を生で観戦できたことは本当に感銘を受けて、私の人生の中で大切な思い出の一つになったと思います。

(5) 留学の経験を今後どのように生かしていくか

留学を通して学んだ語学、文化、生活、そして私が得た様々な経験を、多くの人に共有することに努めていきたいと考えています。自分の経験として自分に生かすのはもちろんですが、市や学校、友達のサポートがあってこの経験につながっているのも、今度は自分が多くの人に恩返しをして、誰かの役に少しでも立てることを願っています。

(6) 後輩に伝えたいこと

今この一瞬、私たちが過ごしている時間は、二度と変えることができません。だからこそ、自分たちの行動一つ一つに価値を見出して、有効的に時間を過ごすことが本当に大切だと感じます。幾多の困難に直面しても、努力することを諦めず、継続することが、私たちが夢を叶えることができる大きな一歩になると思っています。留学に一度でも興味をもったことがある人はぜひチャレンジしてみることをお勧めします。それが自分たちにどんな影響を与えるのかは人によって異なりますが、今後絶対に後悔しない貴重な人生経験になると私は思っています。今の自分がしたいことをとことん追及してください。

